

むかいやあんしぇったん

— 懐かしい昔の風景 —

1. “陸の孤島”に風穴 —大国トンネル—
2. 根謝銘（ウイ）グスクの神アサギ
3. 喜如嘉入り口
4. インナトゥで遊ぶ子供たち（喜如嘉）
5. ふた組あったともだちの木
6. 大兼久川（シャーロット台風）
7. 旧庁舎米寿祝い（トーカチューエー）にちなんで
8. 道路の様変わり
9. 大宜味街道（塩屋）
10. 兼久浜
11. 塩屋橋完成記念切手、赤橋のナゾ
12. 塩屋大橋開通の光と影
13. 大保橋
14. 渡野喜屋の渡し
15. 住民一体となって架けられた宮城橋
16. たくましい江洲の学童
17. 津波国道沿い

1. “陸の孤島”に風穴 一大国トンネル



7-2 国頭村浜側から見た大国隧道（トンネル） 田嘉里



7-3 国頭村浜側から 58 号方面を見る 田嘉里 2016 (H28) 年

古い写真は国頭村浜側からみた大国トンネル。国頭村史（国頭村役所 1967 年）によると、『郡道は伊佐川—源河間、塩屋—辺土名間で工事が進められた。塩屋—辺土名線では喜如嘉から謝名城・田嘉里を経て国頭村浜に至るか、海岸を廻つて浜に入るか、大宜味村出身県会議員平良真順と国頭村長県会議員宮城栄喜との間に意見の対立があった。平良は村内の産業開発、宮城は経費の節約一距離の短縮に立脚しての主張であったが、ついに宮城案に押し切られてしまった。

1919(大正 8)年にサバ崎で大国トンネルの開削が着手されて翌年完成、1921(大正 10)年、辺土名まで郡道(郡組合道路)が開通した。トンネル開通で辺土名以北の道路整備も大きく前進し、経済、教育、福祉など多くの分野に恩恵をもたらした。

4. インナトゥで遊ぶ子供たち（喜如嘉）



7-8 インナトゥの堤防・護岸工事の様子。中央を斜め上に走るのは郡道 喜如嘉 1920 (T9) 年頃



7-9 護岸壁ができる前のインナトゥ（港） 喜如嘉



7-10 バイパスが開通し喜如嘉橋が架かった 2013 (H25) 年

1993（平成5）年の喜如嘉バイパス開通により集落内を通っていた国道が海沿いに走り、インナトゥには喜如嘉橋が架けられた。

「川口」と呼ばれる喜如嘉入口付近は元々、喜如嘉川がその辺りを流れ深い澗みになっていた名残の地名で、度々起きる水禍を防ぎ、耕地を拡張するために、1920（大正9）年、浴川橋から下流で“川を移転する大工事”が、当時の平良真加良区長の英断により進められ、区民一丸となって汗を流し現在の流れに導かれた。

このフロンティア精神は、後の村政革新運動や火葬場建設にも色濃く引き継がれた。

5. ふた組あったともだちの木



7-11 国道 58 号を北向けに走る車 左側にふた組のともだちの木がみえる 喜如嘉 1963 (S38) 年



7-12 今も残るともだちの木。道路拡張工事の際も大切に保護された 喜如嘉 2011 (H23) 年

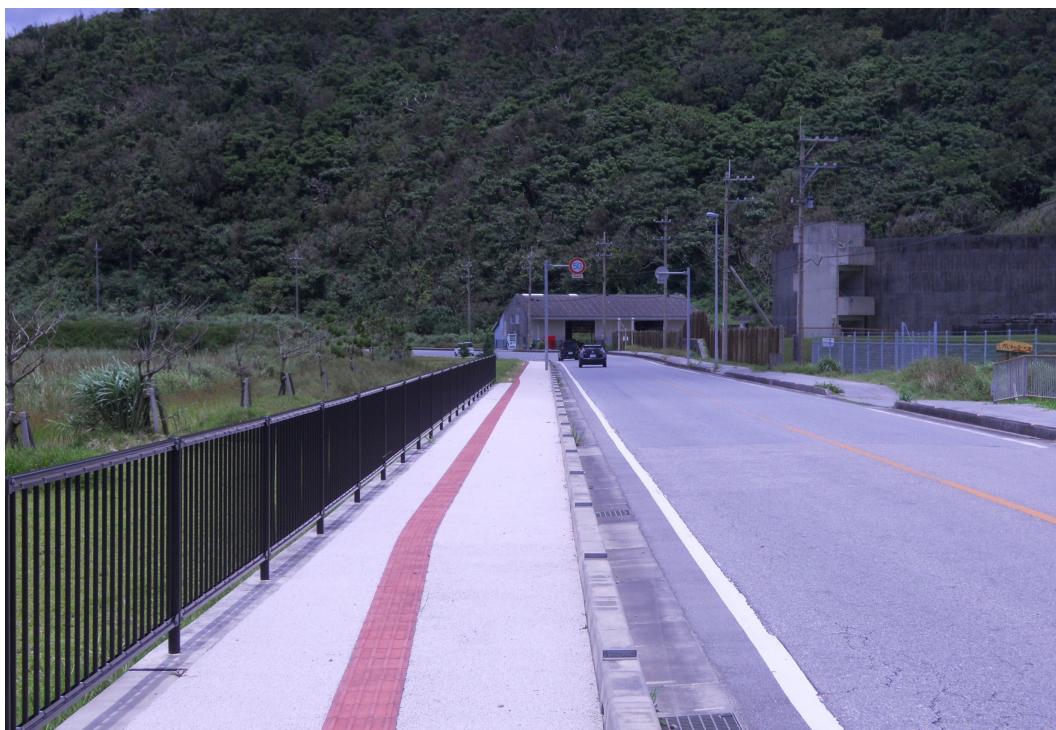
まだ舗装されていないイサジキミチ（辺土名高校から喜如嘉入口の直線道路・イニブイドーともいう）を、土煙を上げながら走ってゆく政府公用車（1963年3月29日 大田政作行政主席北部視察）。右側通行が“アメリカ世”を偲ばせる。この後、1972（昭和47）年の本土復帰を経て、交通区分変更（1978年・昭和53年）で“車は左・人は右”に変わり、“ヤマト世”へと時代は移ってゆく。

古い写真では仲良しの木が2組あるのが確認できる。現在はきれいに舗装された道に手前の1組だけが時代の流れを見守っている。

8. 道路の様変わり



7-20 波しぶきをかぶるトラック 安根 1978（S53）年以降



7-21 左側に結の浜、右に県企業局根路銘増圧ポンプ場、右奥にJAおきなわ集出荷場がみえる 2013（H25）年

やんばる路は“悪路”に加え、海の荒れる冬場などは防波堤を超えてくる波をもろに被るため、車はすぐに錆びつきドライバーの悩みの種だった。

古い写真は安根のJA集荷場付近の国道の様子。すでに左側通行になっているところから【730・道路交通方法変更】（1978・昭和53年）以降と思われる。その後の拡幅工事、埋め立てで景色は大きく変わった。

9. 大宜味街道（塩屋）



7-22 松並木が美しい大宜味街道 塩屋 1940 (S15) 年代



7-23 国道 58 号で塩屋から安根へ向かうカーブ 2011 (H23) 年

「大宜味街道」と書かれた古い写真は、1940年代の風景だと思われる。場所は現在の塩屋漁港より北よりのニンガマ(念蒲)付近の国道58号で、塩屋から安根へ向かう最初のカーブのところ。

現在この場所から左手の海側は、大保ダム建設で出た掘削土を利用して埋め立てた、広大な埋立地「結の浜」になっており、小・中学校、子ども園、診療所、村営住宅、公園、企業支援工場、民間アパートなどが建ち並び、住宅分譲地もほぼ埋まり、新しい集落が出来上がりつつある。

鳥の視点で見るいまむかし



7-43 空から見た大兼久・大宜味集落 2006（H18）年4月8日

この章では、人の視点と鳥の視点で大宜味村を眺め、今と昔の時間旅行に出てみることにする。

出来るだけ同じ場所の同じアングルで撮られた写真を集めてみた。さらに、ほとんどの人が肉眼で見ることのない、各集落の全景を捉えた航空写真を集めた。

それらの写真を並べて見比べてみると、現在との違いを明確に見て取ることができるかもしれない。信じられないくらい変化したところがあれば、驚くほど変わらないところもあり面白い。この建物は何年に出来たとか、この道はいつ頃開通したとか、この山崩れは何年の〇〇台風の被害だとか、注意深く観察することで、写真是様々な情報を与えてくれる。

そして、一見しただけでは分からない当時の様子を、その時代を生きた方々から話を聞くことで、当時の情景が生き生きと甦ってくるだろう。



7-50 国道拡張前の喜如嘉全景 1988（S63）年5月7日



7-51 1993年（H5）年3月に国道バイパスの開通式がおこなわれた 2013（H25）年2月25日撮影



7-68 根路銘 郡道（後の国道 58 号）沿い 海側にあつた 3 軒ほどの家は台風で流されたという 1952 (S27) 年



7-70 根路銘の海岸線 手前の瓦屋根は売店 1952 (S27) 年頃



7-69 根路銘 国道 58 号沿い 南向け（右側が国道） 2022 (R4) 年 7 月 12 日



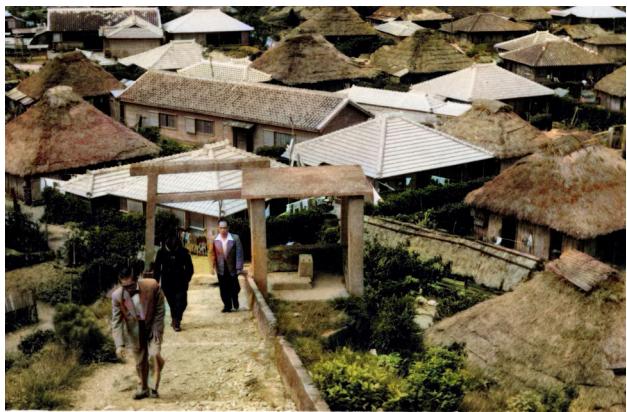
7-71 根路銘 国道 58 号沿い 北向け 2022 (R4) 7 月 12 日



7-72 農村活性化センター横にある親川滝 根路銘 戦後
手前にはたわわに実った稻がみえる



7-73 親川滝 根路銘 2022 (R4) 年 8 月 現在も大雨が降ると濁流が流れ落ちる



7-79 ハーミンジョーのぼり口から見た塩屋の集落 戦前



7-80 1999 (H11) 年に開通した新しい塩屋大橋
2010 (H22) 年 9月 11 日



7-81 番に行くために塩屋湾内を舟で移動していた
ハンザキから見た塩屋湾 1952 (S27) 年頃



7-82 番に行くために塩屋湾内を舟で移動していた
ハンザキから見た塩屋湾 1952 (S27) 年頃



7-83 空から見た塩屋湾 2011 (H23) 年 8月 24 日



7-84 シャーロット台風による地滑り跡を走る路線バス 屋古
1959 (S34) 年



7-85 空から見た屋古集落 2011 (H23) 年 8月 24 日



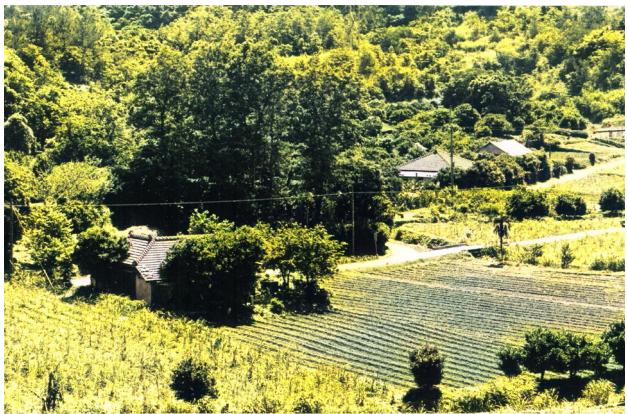
7-86 段畑が美しい田港の集落 1950 (S25) 年頃 停泊しているのは山原船か



7-87 ダチガ一付近から見た田港集落 2019 (R元) 年 8月



7-88 空から見た田港集落 2011 (H23) 年 8月 24 日



7-89 押川 1979 (S54) 年



7-90 押川多目的集会施設前 2022 (R4) 9年 29月



7-91 埋立前の大保 1962 (S37) 年



7-92 埋立前の県道グワー 大保



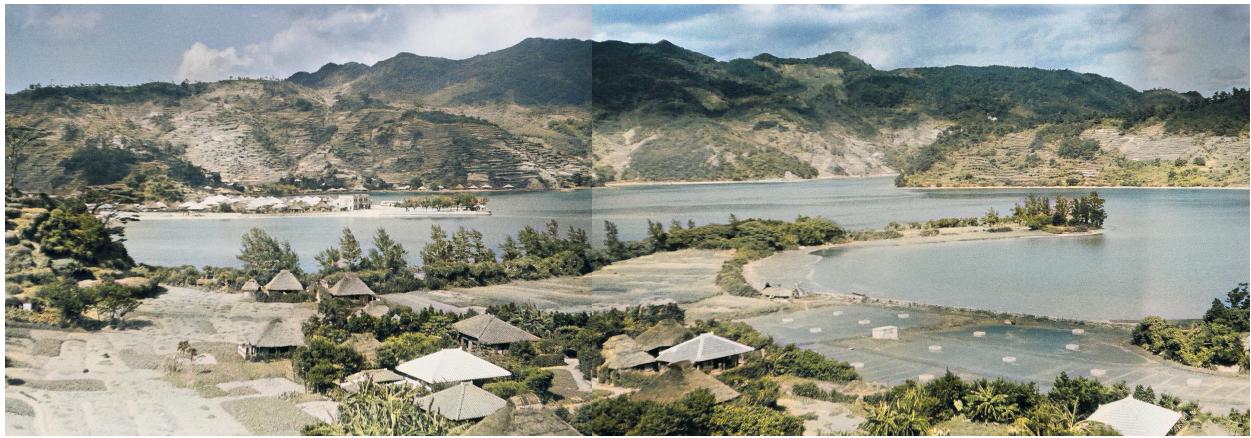
7-93 塩田跡シナマー埋立中の大保 1981 (S56) 年



7-94 空から見た大保集落 2011 (H23) 年 8月 24日



7-95 空から見た大保全景 2011 (S23) 年 8月



7-96・97 宮城島の風景 右側は塩田（後の村営宮城団地付近）1954（S29）年9月5日



7-98 空から見た宮城と塩屋の集落 2011（H23）年8月24日



7-99 白浜から宮城島を見る 1959（S34）年2月



7-100 白浜から宮城島を見る 2015（H27）年2月



7-114

山の頂上まで畠として利用されていた
砂浜にはビーチロックが見える
終戦前の様子が分かる貴重な一枚

津波 1945 (S20) 年 4月 3日



7-115

空から見た津波の集落 ビーチロック
は砂に埋もれわずかに痕跡を残す

津波 2013 (H25) 年 2月 25日



7-116 美しい長い砂浜と山の頂上
まで続く段畠が特徴的な津波
1945 (S20) 年 4月 3日



7-117 今では山に木々が生い茂り砂浜はわずかで
海中にはテトラポットが設置されている
2011 (H23) 年 8月 24日